

モニタリング結果報告書（平成24年度上半期）

施設	三浦ふれあいの村
指定管理者	公益財団法人横浜YMCA
指定期間	H23. 4. 1 ～ H28. 3. 31
施設所管課	子ども教育支援課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

環境問題や国際性を培うようなプログラムを企画するなど、提案どおりに取組みを実施していること、収支状況にも問題がないことからB判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認 通知日	確認方法			指導 等の 有無	備考（指導事項等）
			月 報 確 認	現 場 確 認	電 話 確 認		
4月	5月10日	5月23日	○	×	○	無	
5月	6月8日	6月21日	○	×	○	無	
6月	7月10日	7月31日	○	×	○	無	
7月	8月10日	8月27日	○	×	○	無	
8月	9月10日	9月20日	○	×	○	無	
9月	10月10日	10月22日	○	×	○	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	豊かな人間性と社会性を育む体験や学習の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業を10企画、調査・研究及び支援事業を4企画行ったところ、総数で2,337人（主催1,950人、調査・研究387人）の方たちにご参加いただきました。 ・ロケーションを生かしたマリンプログラムを中心に、子ども、ご家族、大人 それぞれの対象に応じたプログラムを提供することができた。 ・環境問題に関して、参加者と共に考えることができた。子どもたちにキャンプで学んだことを発信していただく学校の先生向けのエコキャンプは、人間が置かれている状況を再認識する良い機会になったと言える。

	提案内容	実施状況
2	地域との連携を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の有志の方にご協力いただくサポート委員会を上半期2回開催し、ふれあいの村へのご意見をいただくことが出来た。主催事業や村の利用方法に関してご意見をいただくとともに地域と協働して行う11月の「ふれあいフェスタ」の開催に向けて貴重なご意見をいただくことができた。 ・海水浴の季節に向けて「海の会議」を開いて地域の方たちからのご意見をいただくことができた。 ・近隣の学校(初声中学校、三浦臨海高校、逗子高校)には、コミュニケーションゲームの指導で、職員が協力することができた。 ・近隣の高校のシーカヤックの体験授業を村で実施し、職員が指導することができた。 ・三浦市内の休耕田の活性化プログラムには、村のボランティアを動員してお手伝いすることができた。
3	国際性、ボランティアの育成、価値教育、指導者養成	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾からボランティアの指導者を招き、利用者対象に国際理解講座を開講し、「台湾から見た日本の状況」等のワークショップを行った。 ・大学生、高校生を対象に、ボランティア指導者講習会(リーダーネット)を月1回開催する一方、大人のボランティア養成に向けた取組みも進めた。 ・主催事業では、グループワークの手法を生かしながら、自らの身体全体で感じる実体験を大切にしながらプログラムを実施することができた。 ・ボランティアだけでなく職員の指導能力の育成を目指し、公立施設の野外教育研修等に積極的に参加させた。
4	職員による軽微な修繕の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に気持ちよく利用していただけるよう、炊事場屋外テーブルの修繕、宿舍床Pタイルの破損箇所貼替え、タイルカーペット貼替え、トイレ・浴室等配水管修繕、壁の塗装、花の整備や樹木の管理を丁寧に行った。
5	利用者への接遇面の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期に委託業者も含めた村の従事者全員が統一ユニフォームを着用したところ、利用者からは「一目して職員が判別できる」と好評だった。また、連帯感を持って利用者をもてなすことができ、職員のモチベーション向上につながった。 ・朝・昼の職員の打合せ時には、委託業者も出席し、職員会議には食堂責任者も出席するなど、村の業務に従事する者が一体感を持って、利用者サービスの向上に努めるよう、心がけた。

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		140,702	2,214	—	142,916	142,916	0
予算額	前年度	139,055	2,150	—	141,205	141,205	0
	上半期	62,176	1,450	—	63,626	63,626	0
	下半期	76,879	700	—	77,579	77,579	0
	今年度	140,610	2,207	—	142,817	142,817	0
	上半期	62,006	1,487	—	63,493	63,493	0
	下半期	78,604	720	—	79,324	79,324	0
上半期実績額	4月	9,633	189	900	10,722	7,328	3,394
	5月	7,588	228	794	8,610	7,714	896
	6月	15,136	72	870	16,078	14,972	1,106
	7月	10,598	223	2,407	13,228	10,514	2,714
	8月	9,153	513	1,039	10,705	12,034	▲ 1,329
	9月	9,898	310	934	11,142	15,124	▲ 3,982
	今年度 上半期合計	62,006	1,535	6,944	70,485	67,686	2,799
	前年度 上半期合計	62,176	1,189	4,794	68,159	66,174	1,985
	対前年度上半期比				3.4%	2.3%	

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

③

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度上半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度上半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100万円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	0	
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	7,418 人	3,701 人	100.4 %
5月	9,277 人	8,133 人	14.1 %
6月	10,833 人	14,607 人	▲ 25.8 %
7月	15,949 人	13,444 人	18.6 %
8月	10,978 人	9,497 人	15.6 %
9月	8,705 人	10,154 人	▲ 14.3 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	65,000 人	63,160 人	59,536 人	▲ 2.9 %	6.1 %
今年度下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度上半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度上半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	<ul style="list-style-type: none"> ・23年度は東日本大震災の影響で利用者が大幅に減少したが、24年度も引き続き影響を受けている。学校を中心に22年度より16,253人減少した。 ・22年度を目標に利用者数の回復を図っているが、まずは23年度を超えようと65,000人を目標値に設定したところ、23年度上半期を上回る利用があったが、目標値までは届かなかった。 ・対策として、職員による学校訪問を実施し、三浦ふれあいの村の良さをアピールし、防災に関する情報提供を行っている。主な利用者である学校利用を回復させようと、学校関係者への訪問、資料提供を継続して実施している。
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	0	0	0	472	472
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

分野	概要	対応状況
施設・設備	掃除はきちんとされているものの、改修すべきと感じる場所がいくつかあった。また、ロープを張って「立入禁止」となっている所が多いことが残念だ。	掃除は清掃業者に委託しているが、気づいた箇所については、職員が掃除している。ロープで「立入禁止」になっている場所については、できる限り改善して少なくしている。
	施設・設備の古さを感じる。冷房の中でないと就寝できない子どもへの対応として、指導者控室だけでも冷暖房(エアコン)を導入してもらいたい。	宿泊棟には扇風機を配置している。冷房の希望は多いが、対応できていない。
職員対応	施設利用について、スタッフの方によって認識の違うことがあり、とまどった。	施設利用に係るマニュアルの見直しなどを行い、スタッフ間での統一を図っている。
事業内容	夏休み中に来たかったが、5人以上でないと申込できないことがとても残念だと思った。来年からは最低人数を変更してほしい。	多くの方に利用していただくため、最少の人数が6人部屋であることから、5人以上の申込で受け付けている。家族利用だけでなくグループでも予約できる。
	書類が複雑で、あちこち見ないと記入できない。	書類の内容を簡素化し、わかりやすい書式と内容にしていく。

その他	Webで予約できたらよい。また、電子メールで申請書を提出できるようにしてほしい。	個人情報保護上の問題や、環境が整備されていないため、現在は対応できない。
	活動プログラムの充実とともに、大規模な施設設備のリニューアルを望む。	利用者の獲得を図るために、新規活動プログラムを調査研究し、充実したプログラムを提供できるようにする。

8 事故や不祥事等の発生状況

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
6月23日	村の利用者が、ヨットの自主活動中に、一般者の手漕ぎボートに衝突し、怪我を負わせた。	他の利用者から連絡を受け、対応した村の職員が、すぐに救急車を呼ぶよう指示するとともに、海上保安庁による実況見分の立ち会い等を行った。 利用団体に対しては、団体として新たな安全対策を講じるまで、海での活動を自粛してもらうよう、通知した。	村では、マリンプログラム安全指針を定めており、出艇については、風向き、風力により、その基準に基づき職員が判断している。今回のケースは、判断は基準どおりに行っていたが、利用者の操作ミスにより事故が起きてしまった。

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

・利用者数については、東日本大震災直後の23年度を上回ってはいるが、目標数には達していないため、学校を中心としたPR活動を効果的に行うよう指導した。